

平成 27 年度 SGH 課題研究基礎力養成講座（学内留学）第 1 回実施報告

はじめに

7 月 11 日（土）午前 9:00、六稜ホールにて学内留学の開講式を行いました。学校長から激励の言葉を頂き、講師紹介と続きました。司会席から見て 129 名とホールに溢れんばかりの意欲溢れる生徒たちが参加してくれていることに、4 年目を迎えるこのプログラムの認知度と評価の高さを感じました。

9 時 30 分～15 時 10 分の 5 時限の授業中、北野高校の LL 教室より西側の 3 階教室は、空間を超え、遠く海を隔てた大学のキャンパスとなっていました。129 名の北野生たちはまさに『留学』を体験したのです。

受講生よりの報告

1) 教育学講座（報告者 1 年 0.S）

私は、英語をもっと話せるように、聞くことができるようになるために、SGH の学内留学に行きました。もともと、友達から普段の英語の授業よりも難しいことや、オールイングリッシュだということは聞いていました。しかし、何事もやってみないと分からないと思い、参加を決意しました。私が参加したのは教育学コースで、生徒への教え方などの難しい理論を英語で説明されるのかと思っていましたが、実際には違いました。

1 限目は、自分の名前の由来を英語で説明する授業でした。自分の名前は説明しやすかったのですが、質問をされると、すぐに答えられず、時間がかかってしまいました。しかし、逆に聞く側になると、日本語で説明されるよりも想像しながら聞いていたので、新鮮に思えました。

2 限目は、ノートの取り方を教えてもらいました。自分が板書しているものとは全然違って、とても見返しやすいものでした。英語以外の教科でも使ってみたいと思いました。

3 限目は、VAK という、学習を定着させるための方法を教えてもらいました。班に分かれて、VAK についてのいくつかの単語の意味を推測し、さらにそれらを英語で訳を作る作業を行いました。英訳するのは初めてで、難しかったです。

4 限目は普段自分たちがしていることが VAK のどれにあてはまるのかを考えました。日常のあたりまえのようなことが学習の定着につながっていることを学びました。

5 限目は、粘土を使って惑星の模型を作ったりして、VAK を意識しながら体験しました。7、8 年ぶりにねん土を使ったので、盛り上がってしまいましたが、自分が小さかったとき、お絵かきやねん土などを通じて、学習の仕方を学んでいたんだと感じました。

今回の学内留学では、先生の英語が聞き取りやすく、分からないととまどうことがあまりなく、また、参加した人たちも、グループワークで自分たちの考えをしっかりと述べて意見交換をするなど、授業を熱心に受けていたので、最後までおもしろく、なにより楽しむことができました。そして、自分の思ったことを英語で話すことが今の自分にはうまくできないことにも気づくことができました。次からの学内留学でも、授業を楽しみながら英語力を鍛えていきたいです。

2) 法律学講座（報告者 1年 T.R）

1 限目は、自分の名前についての短いスピーチを行いました。頭の中で考えてはいたものの、すぐにしゃべるとなるとうまく話すことができず、自分の中にある英語がどれだけ薄っぺらいものかを感じました。しかし、他の人のスピーチを聞いて、話し方など学べるものがたくさんありました。先生は、ひとりひとりに相槌を打っていてとても話しやすい雰囲気でした。

2 限目は、効果的なノートの取り方について教わりました。英語をすべて、書き取ることはできないため、キーワードを判断し、単語だけ書き、決して文を書かないというものでした。これは、英語だけでなくすべてのことに通ずるものです。今後実践していこうと思っています。

3 限目は、法とは何かという問いについて考え、法律の種類、法律の適用される犯罪の種類について学びました。法律とは何かと聞かれると簡単に答えることはできません。それぞれが考え、グループワークを通し深く考えていきました。その後、具体的な法律、犯罪について、先生の言葉を2時限目に習った方法でノートにとり、ペアで説明をしあいました。いくら分かっている、自分の英語で発信をすることは難しく感じました。

4 限目は、刑罰や抗弁について学びました。3 限目と同様に、ノートにとり説明を行いました。そして、これまで学んだことを踏まえ、簡単な例について考えました。自分で刑罰や抗弁について考えるのは難しく、判断の重さというものを感じました。

5 限目は、具体的に「安楽死」というテーマについて考えました。安楽死を殺人と考えるのか、それとも許されることなのか、ということについて短い意見文を書き、グループワークで意見交換をしました。意見交換をすることで、違う意見に触れ、より深く考えることができました。先生とも意見交換をすることができ、密度の濃い授業でした。次回は、今日学んだことを踏まえ、実際の例についてグループで議論しプレゼンテーションを行う予定です。

ネイティブ講師の講義を受けることができるのは、めったにできない経験です。現場で働いていらっしやった経験のある方に、教わることができる環境があることに感謝しています。講義を受けるまでは、All English ということに、先生の英語を理解できるのか、自分の英語が伝わるのか、と不安を感じていました。また、不安とともに待ち遠しい気持ちもありました。実際、教室の中で聞こえるのは英語だけというのはとても新鮮で、堅苦しい雰囲気でもなく、楽しみながら授業を受けることができました。先生ともお話しすることができ、モチベーションも高く授業を受けることができました。まだ一度目の授業でしたが、法への興味が湧きあがるような感覚がありました。次回から、より深く学べることをとても楽しみに感じています。

3) ビジネス学講座（報告者 1年 T.R）

1 時間目)自分の名前とその由来について、4 人グループで発表しあい、興味深い名前はノミネートされ、みんなの前で発表しました。（私は Lance 先生に指名されて発表しましたが、名前の由来が山の峰からきているので、以後 Mountain Top と呼ばれました。）みんなの前で発表する時、外国人の方とマンツーマンで話すのでさえ怖かった私はガチガチに緊張して噛んだり、少し震えたりしてしまいました。

2 時間目)宿題でやってきたビジネス用語の定義を 3 人グループで発表しあいました。その後、単語あてゲームをしました。この時間に Lance 先生は興味深い話をしてくれました。「日本では生徒たちは Afraid to mistakes だ。自分の間違いを恐れて、積極的に発言しようとしな。しかしアメリカやヨーロッパの国々では Celebrate failure である。」この言葉は学内留学を通して、もっとも印象深かったです。私自身も学校の授業などで控えめになってしまうことが多く、英語ではなおさらでした。多くの日本の学生もそうだろうと思います。でも、“それでは他人の意見に乗っかっているだけになり、世界では通用しない。世界で活躍する人は、そのような力を兼ね備えた人なのか!!”と改めて実感しました。

3 時間目)講義型の授業で、製品を生産するために必要なものや必要な環境について例を交えながら学びました。この授業はかなり本場の授業に近かったのではないかと思います。完全な英語だけの授業なので、自分の今の知識や単語量では理解できないところも多々ありましたが、辞書を使ったり、友達に教えてもらったりして行くうちに段々と授業を聞くのが楽しくなったように思います。

4 時間目)プレゼンテーションをするうえで、説得力のある文章の書き方や発表のコツについて学びました。プレゼンテーションを行ううえで、大切なのは…①視線を上げて、聴衆の目を見て話すこと ②発表のメモは文章ではなくキーワードを見やすい大きな文字で書く…ということでした。これは、プレゼンテーションをするうえで、基本的かつ社会に出たときに必要になることですが、無意識にできるようになるのは相当難しいように思います。多くの人には人前に出ると緊張して、頼みの綱のメモ用紙に眼を落とし間違いがちですが、やはり世界で活躍している人にはこのような力も備わっているのではないのでしょうか？

5 時間目)6 人だけみんなの前で身の回りの製品について発表しました。私はやっぱり緊張してしまいましたが、ほかの 5 人は筋道の通った発表をしていて、学ぶことが多かったです。

このような機会はめったになく、学内留学を通して、多くの刺激を得られたように思います。英語は出来るほうだと思っていた自分に一喝を入れられました。自分よりも Hearing 能力のある人、堂々と発表できる人からは多くのことを学べました。私は実は本場の留学も考えているので、英語に触れるという面でも貴重な時間でした。ここで学んだことをこれからの英語学習に活用したり、社会に出るときの参考にしたいです。

4)心理学講座 (担当 1年 H.M)

Psychology is all around you.

学内留学。初めての体験で戸惑うこともありましたが、とても充実した時間でした。心理学の 1 時間目は自分の名前についてのショートスピーチでした。4 グループに分かれて、名前に使われている漢字・意味・名前を付けた人・同じ名前の有名人などを発表しました。伝えたいことがうまく言葉にならず、思わず日本語がでてしまうときもあり、自分の英語が喋れている「つもり」だったことを痛感しました。

2 時間目はノートの取り方を勉強しました。講義の内容をそっくりそのまま写していたのでは、書くことだけに集中してしまい、先生のおっしゃっていることはおろか、書

いている内容すら頭に入りません。それをふまえてパワーポイントと先生の説明を元に自分なりにノートをとりました。しかし、何故かパワーポイントが故障。動かなくなっ
てしまい、思わぬタイミングでリスニングのトレーニングをすることとなり、耳が格段
に鍛えられました。

3 時間目は、本題である「心理学」とは何かを学びました。この授業が 5 時間の中で 1
番難しかったです。専門的な単語、難しい表現。授業後に辞書を片手に調べていくと、
日本語の授業であったとしても、理解するのが少し難しい。そんなレベルであったこと
に驚きました。そのため Craig 先生は、わかりやすく、おもしろい具体例をたくさん出
して下さいました。例えば、「科学的な実験で心と行動の関係を見出す」という説明だけ
では少し理解しづらいかもしれません。すると先生は突然「ワッツ」と目の前の生徒を驚
かしました。当然生徒はびっくり。「驚かしたことで、相手がどのような行動をとるのか
調べることで、心と行動の関係がわかります！」先生は脅かされたことがうれしかったの
かにここにこしながらそうおっしゃっていました。最初は、難しいなあと思っていた授業
でも何とかついていけたのは、ユーモラスな先生の例え話のおかげです。

4 時間目は「行動に影響するもの」は何か、をペアで話し合いました。インタビュー形
式で「昨日歯を磨いたこと」、「朝ごはんを食べたこと」など、それぞれ何に影響された
のか、質問しあいました。日頃あたりまえにやっていることが多く、答えに困ることも
ありましたが、話し合ううちに、自分の考えがまとまって、行動の影響について深く考
えることができました。

5 時間目。私たちは身近なところにも心理学があることを知りました。先生はスーパ
ーマーケットを例にしました。「レジの近くにあるもの」、「牛乳やパンが置いてある場
所」、「野菜が並ぶ場所」。よくスーパーで買い物をする方なら家の近くのお店のどこに
何があるか大体わかると思います。ですが、「なぜその商品がそこにあるのか」ご存じで
しょうか。そこには、少しでも長く客をお店にとどまらせ、少しでも多く商品を買って
もらうという心理学的な理由が存在するはずです。まずグループで話し合いながら商品
の配置をプリントを使って考え、最後に先生が正解を発表しました。中には私が思っ
ていなかった理由があり、身近な心理学への興味がさらにふくらみました。

見る、聞く、書く、話す、すべてが英語。そんな状況についていけるのか正直不安で
した。しかし、わかりにくいところでも、丁寧に、ゆっくりと説明してくれて、時に冗
談を交えて発現しやすくしてくれた Craig 先生。たとえ文法が間違っていたとしても、
真剣に耳を傾けて、返答してくれたクラスの人。たくさんの人のおかげで、いままで考
えもしなかったことに目を向け、新しい発見をすることができました。次回の授業まで
に少しでも英語を上達させて、もっと理解を深めていきたいです。

